ハンドマイク街頭演説原稿例　大軍拡は暮らしと営業こわす

二〇二三年一月七日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　岸田自公政権が、日本の安全保障政策を根本から変える「安全保障３文書」を閣議決定しました。敵基地攻撃能力を持つことをはじめ、過去に例のない大規模な軍拡に突き進もうというものです。他国から侵略されたときに対抗する「専守防衛」に徹し、他の国に軍事的な脅威を与えない、という大原則を踏みやぶる、「戦争国家づくり」の方針であり、認めるわけにはいきません。

　この大軍拡を進めるためには、多額のお金が必要になります。岸田政権は二〇二三年度政府予算案で、軍事関係の予算を約十兆円も盛り込みました。歳出総額の９％を占めます。この中には、二四年度以降に使う分の先取りも含まれています。財務省も、「防衛関係費」は前年度から８９％の増加、ほぼ２倍になったと説明しています。まさに目を疑いたくなるほどの急増ではないでしょうか。その財源には新型コロナ対策資金の一部を流用したり、建設国債、借金を当てたりしています。かつての自民党内閣は、軍事費の財源のために借金はしないと公式に明言していました。これをあっさりと破ってしまう、まさに暴挙ではないでしょうか。

　この一方で、社会保障や暮らしの予算を軒並み削りました。高齢化で自然と増えるはずの社会保障費は、七十五歳以上の高齢者の医療費窓口負担を２倍にするなどして、自然増の幅を抑えています。公的年金の支給額も抑えこみ、物価増のために実質的な年金削減となります。政権が掲げていたはずの「子育て予算倍増」は、実現の見通しがありません。コロナ危機や物価高騰への対応はまったく不十分です。

　中小企業対策費は１７０４億円ですが、これは「安保３文書」で導入が盛り込まれたトマホーク巡航ミサイルの購入費２１１３億円を下回ります。岸田自公政権が軍事ばかりに力を入れ、国民生活のことを考えていないことが、よくわかる予算案ではないでしょうか。

　国民の暮らしを犠牲にし、「戦争する国づくり」に財政を総動員するのは、日本がアジアへの侵略戦争に突き進んだ時と同じです。戦費調達のために国債を大量に発行して際限のない軍拡に突き進み、戦後はそのために破壊的なインフレーションを引き起こした歴史を繰り返させていいのでしょうか。

　日本共産党は、憲法違反でアジアに戦争の危機を招くだけでなく、私たちの暮らしと営業を徹底的にこわしてしまう大軍拡を止めるとともに、岸田暴走政権を退陣に追い込むため、みなさんといっしょに全力で取り組む決意です。ぜひご支援をいただきますよう、お願いいたします。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）